

# 1. 評価結果概要表

作成日

平成19年 7月 3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4091600116
法人名	医療法人 宇都内科医院
事業所名	グループホーム「日和庵」すわの
所在地	福岡県久留米市西町1046-7 〒830-0038 (電話) 0942-35-6860

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年6月22日	評価確定日	

## 【情報提供票より】(平成19年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 7月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	13人 常勤	7人 非常勤	6人 常勤換算 7.8人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り 2階建ての～ 1～2階部分
------	--------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有( 10,000円)	有の場合 償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日あたり 円程度			

### (4) 利用者の概要( 4月 1日現在)

登録人数	9名	男性	1名	女性	4名
要介護1	0名	要介護2			4名
要介護3	3名	要介護4			1名
要介護5	1名				
要支援1	名	要支援2			名
年齢	平均 82歳	最低 74歳	最高 90歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 宇都内科医院, 医療法人松風海 内藤病院, やました歯科
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路から1本奥まった昔ながらの閑静な住宅街に建つホームである。この地で始めた病院が母体であり、母体病院に近接しているため、入居者と家族はホームでの生活に大きな安心を得ている。和室の床の間に季節の生花が生けられており、共有スペースから新緑に輝く緑が眺められ、隣家の軒先を垣間見ることができるなど、地域の中で暮らしていることを実感できる。開設して1年が経過したばかりであり、さまざまな場面での工夫が必要であると思われる。まずは日常のかかわりの中で把握した入居者一人ひとりの希望や意向等の情報を共有化し、入居者本位の視点にたち入居者自身のしたい事やできる事に着目しての暮らし方を支えるプランの作成に努めてほしい。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 今回が始めての外部評価の実施である。今後、外部評価結果を、家族、運営推進会議、行政、ホーム職員等に広く周知し、課題の改善に取組んでほしい。
	<b>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</b> 自己評価実施にあたり、ガイドブック全体を見直し、備品や消耗品のチェックをしたり置く場所を決めるなど、職員からの気づきによる改善が図られている。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 去年の9月より、2ヵ月に1度、運営推進会議が行われている。運営推進会議時に地域交流の取組みについて、町内会のバザー参加や子供会との合同での行事の企画等の具体的な提案を受けるなど、地域の参加者と様々な情報交換を行い、交流に向けて取組むなど、サービスの質の向上に向けての努力が見られる。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 家族訪問時の声かけや面談を利用し、家族からの意見や希望などの把握や表出に努めている。入居前よりかかわりのある家族とはコミュニケーションが取れているが、新しい入居者の家族とのかかわりはこれからである。利用者満足度調査や無記名方式でのアンケートの実施など、あらたに家族の意見や希望等を汲み取り、吸い上げるような取組みを期待したい。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> ホーム前庭でのバザー開催時に、地域住民のボランティアに手伝っていただいたり、地域サロン利用者の見学を受け入れるなど、ホームを媒体として地域住民との交流を図るための取組みがある。

## 2 . 調 査 報 告 ( 詳 細 )

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	入居者9名中8名が、近隣の中学校区に住んでい た方であり、地域との関係性を意識し、近隣の方と のコミュニケーションに努めている。		地域密着型サービスへ移行したことを受けて、地 域密着型サービスの意義の理解を深め、地域密 着型を意識した理念作りへ全職員と取組んでほ しい。また、対外的に分かりやすい言葉で理念を 表現し、事業所の雰囲気を壊すことなく目に付く ところへ掲示してほしい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	理念について職員会議時に話しあい、入居者に 不快な思いをさせないように職員間で意見を出し あったり、利用者家族とも、より深くコミュニケー ションをとるよう指導するなど、日常の場面を通 して理念の浸透を図る取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	ホーム前庭でのバザー開催時に、地域住民のボ ランティアに手伝っていただいたり、地域サロン利 用者の見学を受け入れるなど、ホームを媒体とし て地域住民との交流を図るための取組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	今回が始めての外部評価の実施である。今回の 受審にあたり自己評価を行う際に、ガイドブック全 体を見直し、備品や消耗品のチェックをしたり置 場所を決めるなど、職員からの気づきにより改善が 図られている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	去年の9月より、2ヵ月に1度、運営推進会議を実施している。運営推進会議時に地域交流の取り組みについて、町内会のバザー参加や子供会との合同での行事の企画等の具体的な提案を受けるなど、地域の参加者と様々な情報交換を行っている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の参加がある。行政担当職員から受入れ要請や連絡・相談もあり、行政担当職員との連携は図られている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業の利用者はいるが、職員への制度の理解を図るための勉強会等の取組みはこれからである。家族から相談があれば説明しているが、全ての家族に対しての説明や情報提供等の働きかけは行われていない。		全職員が地域権利擁護事業や成年後見制度について理解を深めることができるような取組みを期待する。また、家族訪問時の情報提供や運営推進会議等を利用して、広く情報を発信し、制度の正しい理解と周知に努め、必要な時に確実に利用できるよう支援に努めてほしい。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族訪問時の声かけ、必要な時はその都度の家族を交えての協議などにより報告がなされているが、事業所全体の内容等についての報告はなされていない。また、家族の訪問が多いためか、定期的な広報誌の発行やお手紙でのお知らせなどの取組みはない。		入居者の暮らしぶりや日常の様子を伝えたり、運営推進会議の報告等事業所全体の報告を行う手段として、入居者毎の生活状況のお知らせの作成や定期的なホームたよりの作成などの取組みを期待したい。
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時の声かけ面談等を通して、家族の意見や思いを引き出すような対応がある。また、担当制を設けることにより、話しやすい雰囲気作りへの工夫がある。入居前よりかかわりのある家族とはコミュニケーションが取れているが、新しい入居者の家族とのかかわりはこれからである。		あらたに家族の意見や思い等を出してもらうための方策として、利用者満足度調査や無記名方式でのアンケートの実施などの取組みを期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関しては、何ら制限は設けていない。創作が得意な職員にはイベント係を担当、接し方が上手な職員には入居者の話し相手、経験豊富な職員には指導係を担当してもらうなど、職員間で自然に役割分担ができており、その役割りにそった対応がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育や啓発活動に関しては、未だ取組まれておらず今後の課題である。		人権意識に関してさまざまな方法でアプローチし、喚起する取組みが必要だと考えられます。行政等で行われるの講話への参加や定期的な勉強会の実施等、教育・啓発の機会を積極的に設けることを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	緊急時の対応として転倒や誤飲に関する勉強会の実施がある。外部研修の情報や参加等は職員個人に委ねられており、ホームとしての取組みは今後の課題である。		研修の参加機会を職員個人に委ねてしまうのではなく、ホームとして、職員一人ひとりの習熟度や経験などに合わせた研修の機会や体制作りに取り組んでほしい。
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者間においては、他のグループホームとの個別の交流はあるも、職員レベルでの交流までには至っていない。		介護福祉サービス事業者協議会のグループホーム部会への加入を契機に、職員レベルでの見学や相互研修、情報交換などの機会を持ち、質の向上にむけての取組みを期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	2～3泊の体験入居を通して馴染んでいただくような配慮がある。入居したての方に対しては、できるだけかわりを多く持つなど、精神的安定をはかり馴染みの関係づくりを築くための工夫がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常のかかわりの中で、言葉使いや立ち居振る舞いを指導されたり、人生の大先輩としての人生観を教わるなど、入居者と接する中で、学ばせてもらおうという意識を職員が持ち、精神的な面で常に学び支えあう関係である。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中での声かけによる希望を把握したり、入居者との会話の中から希望や意向を汲み取るように努めている。	○	把握した入居者一人ひとりの希望や意向等の情報を共有化する方策(例えばセンター方式を利用するなど)により、個別記録の充実を図り、情報の共有化に努めてほしい。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	申し送り時の情報交換が行われており、スタッフリーダーは職員の意見を集約して管理者に伝え、管理者は内容を確認した後、介護計画に反映させている。	○	チームケアの視点から、職員全員で活発な意見交換を行い、更なる共通理解を深めてほしい。また、入居者のしたい事やできる事に着目し、入居者本意の視点にたち、入居者の暮らし方を支えるプランとなるよう努めてほしい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要 な関係者と話し合い、現状に即した新 たな計画を作成している	3ヶ月に1度の担当者会議の開催がある。また、職 員会議時に必要な入居者に対するミニカンファ レンスを開くなど、見直しが行われている。	○	変化の有るなしにかかわらず、月に1度のカン ファレンスを確実にいき、全ての職員の気づき を取りまとめ、入居者の現状の把握と現状に即 した介護計画の作成に取り組んでほしい。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支 援をしている	親戚の結婚式への職員付き添いによる参加、法 事のための外出支援など、柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	希望する医療機関への受診は家族対応にて可 能である。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	必要と思われる家族に対しては、ターミナルを含 めて話しをしている。ホームでの対応が困難とな れば、その都度話しをしていく体制であり、早い段 階での終末期に対する家族等との話し合いは行わ れていない。	○	まずは、重度化した場合の本人・家族の希望の 確認から始めるなど、早い段階での働きかけを行 い、今後予想される状況変化に応じた繰り返しの 話し合いと、段階に応じての合意を得て、本人・家 族の思いに沿った支援を行ってほしい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	職員会議時に、他の入居者や職員の情報を聞か れても一切話さないなど、利用者の誇りやプライバ シーを損ねないよう、対応の徹底が図られている。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての流れはあるものの、入居者一人ひ とりの状態に配慮しながら、その時々での本人の気 持ちを尊重しての支援がある。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	特定の入居者のみ、下膳やテーブル拭きなどの かわりが見られるも、食事にかかわる大半のこ とは全て職員対応で行われていた。また、食事は入 居者のみで取っており、見守りの職員が入居者の 後ろに立つなど、食事を決まりごととして捉えている 様子であった。	○	心身の力の維持や向上などの自立支援の視点 から、入居者一人ひとりのできる事やできそうな事 を把握して力を発揮できる場を提供し、また、職員 も入居者と一緒に食事を行うことにより、ともに食 事が楽しめる環境づくりを検討してほしい。
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	基本は週に2回の入浴日の設定であるが、希望 があれば毎日の入浴が可能である。午前から夕 方までの間で、一人ひとりの希望の時間に入浴が 可能である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	新聞おり、洗濯物たたみ、食後のテーブル拭きなど、 入居者の今持つ力を活かすような支援がある。		入居者の思いや希望の把握のみならず、できる 事やできそうな事を把握して、入居者一人ひとりに 合わせた役割作りや楽しみごと等を視野に入れ ての声かけの工夫や雰囲気作りなどへ取組んで ほしい。
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	公園への散歩、買い物、ホーム前庭を利用したの 沐浴、大型ショッピングセンターへの買い物ツアー など、機会をみつけて出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中、ホーム玄関出入り口は開錠しており、玄関 出入り口にセンサーを設置するなど、鍵をかけない ケアへの取り組みがある。外出傾向のある入居者 の事例はなく、外出傾向のある入居者の状態把握 や対応策、施錠することの弊害に対する話し合いな どはこれからの課題である。		鍵をかけることの弊害を、全職員と話しあい、認識 し、外出傾向の察知や職員間での見守り、職員間 での役割分担など、入居者の安全を確保しながら 日中鍵をかけないで支援していく意識付けを徹底 させてほしい。
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	消防署立会いのもとでの避難訓練や、夜間を想 定した避難訓練を実施している。近隣の住宅とは 隣接しているため、災害時の協力は得られやすい が、協力を得るための働きかけはこれからである。		非常災害時における協力体制等を継続的に運 営推進会議で提案したり、避難訓練時の地域住民 の参加をお願いするなど、いざという時の地域との 協力体制作りへ取組んでほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	毎食ごとの食事チェックと補水チェックにより食 事量や水分の把握が行われている。メニュー内容 は、厳密なカロリー計算まではされていないもの、 バランスに配慮した内容である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	和室の床の間に季節の生花が生けられており、 和室やリビングから、新緑に輝く緑が眺められ、隣家 の軒先を垣間見ることができ、ホッとできる空間と なっている。ただし、クリスマスの飾りつけがそのま まになっているなど、季節とそぐわない飾りや掲示 物があった。		大家族が住んでいる家としての空間を意識し、入 居者にとって馴染みの調度品等を取入れての配 置や、リビングや廊下などの季節にそった装飾や 掲示の工夫を行うなど、生活感や季節感のあるも のを上手く活用して入居者の五感へ働きかける 工夫を更に期待したい。
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	各居室には、TV、飾り棚、洋服ダンス、鏡など、使い 慣れたものや馴染みの物が持ち込まれており、安 心して過ごす為の工夫が見られた。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号